

今号の記事

年金改定抗議声明…2面／春の月間は4、5月に…3面／かけがえのない人生を大切に③…4・5面／みんなのひろば…6面／年金者文芸…7面／わが支部／わがまち旅・たび…8面

年金者 しんぶん

第434号 2026年2月15日(日)
(通巻第633号)

全日本年金者組合中央本部

〒170-0005東京都豊島区南大塚1-60-20天翔大塚駅前ビル
発行人 岩崎 勇 月刊1部100円(組合費を含む)
昭和57年6月30日第三種郵便物認可

2025.12.31 組合員数95,918人

連絡先 ☎03(5978)2751

FAX03(5978)2777

honbu@nenkinsha-u.org

ホームページ／年金者組合で検索

「組合は、組合員こそが主人公」

一関支部・佐藤支部長に聞く

― 激動の労働運動から年金者組合へ ― そして農協組合長へ

佐藤一則さん(岩手県本部一関支部長)



岩手県一関市。香川県に匹敵する広大な面積を持つこの地で、全日本年金者組合一関支部を率いているのが御年72歳の佐藤一則(さとう・かずのり)支部長。

自治労連の県本部委員長、さらには農協(JA)の組合長を務めた佐藤氏の半生は、まさに「組合運動」と共にありました。

労働運動から経営の舵取りへ

佐藤氏のキャリアは一関市役所から始まり、50歳で退職後、自治労連の県本部委員長として、分裂攻撃の激しい時代を最前線で闘い抜いてきました。「あの頃は、警察が介入するほどの厳

しい局面もあった」と当時を振り返ります。

その後、請われて地元農協の理事となり、ついには組合長に就任。労働者側から経営側へと立場は変わりましたが、佐藤氏の信念は揺るぐことはありませんでした。「農業協同組合も労働組合も、根源は同じ。弱

い者が結集し、自分たちが主人公となって進まなければならぬ。農協経営においても、常に組合員が主人公であることを説き続けてきました」と語ります。

年金者組合での10年と、これからの課題

2015年に支部長に就任してから丸10年。佐藤氏は、機関紙「支部ニュース」を毎月欠かさず発行し、組合の歩みを記録し続けています。

現在の最重要課題の一つは「補聴器購入助成制度」の確立で「補聴器は

認知症予防に直結する。高齢者の医療費削減、健康寿命の延伸のために自治体が動くべきだ」と、元自治体職員・農協組合長の視点を活かし、行政との交渉を粘り強く続けていきたいと語ります。

「楽しみ7割、活動3割」で地域を支える

一関支部では、サークル活動も盛んで、グラウンドゴルフ、カラオケ、ヨガ、絵手紙など、「趣味」を入り口とした仲間づくりが組織の活性化に



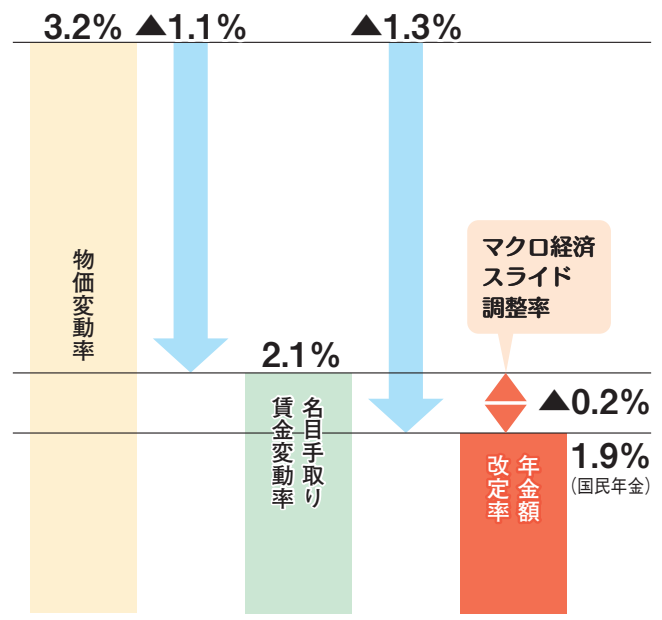
厳美溪

冬の厳しい寒さの中で自然が描いた水墨画そのものでした

繋がっています。「楽しみが7割、活動は3割。でも、その3割の活動で、高齢者の権利をしっかりと守っていきたい」と佐藤支部長。若者の流出や高齢化など、地方が抱える悩みは深い。しかし、佐藤支部長は前を向いて、「年金者組合は死ぬまで活動できる。全労連、自治労連を苦勞して作った先輩たちの志を次世代に繋ぎ、いつまでも応援し続けたい」。その力強い言葉には、一人の活動家としての矜持が満ち溢れている。 (町田伸吾)

年金実質削減に抗議する

物価3.2%上昇 国民年金1.9% 厚生年金2.0% (声明・解説2面)



風雪

いきなりの解り、散、総選挙が1月27日に始まった。大きな争点

点が「消費税減税」だ。消費税廃止、5%減税など主張の違いはあるが、是非実現してもらいたい▼昨年の参議院選挙でも多くの党が消費税減税を公約。選挙後ほど吹く風の様相だったのがにわかには減税合戦となった。自民党・高市総理の「検討を加速」するは「やらない」の永田町用語で論外▼問題は財源。新党の中道改革連合は「年金の積立金の運用益」も活用すること。ちょっと待った! ならばその前に「運用益を公的年金に回し年金額を上げる」と言いたい▼多くの党が財源不明確ななか、日本共産党は大企業優遇税制の見直しや防衛費の削減で財源とする。この「年金者しんぶん」が届く頃には選挙は終わっている▼喉元過ぎれば何とやらは許さぬ。私たちが「消費税減税」の公約を忘れない。必ず実現しよう。(一)